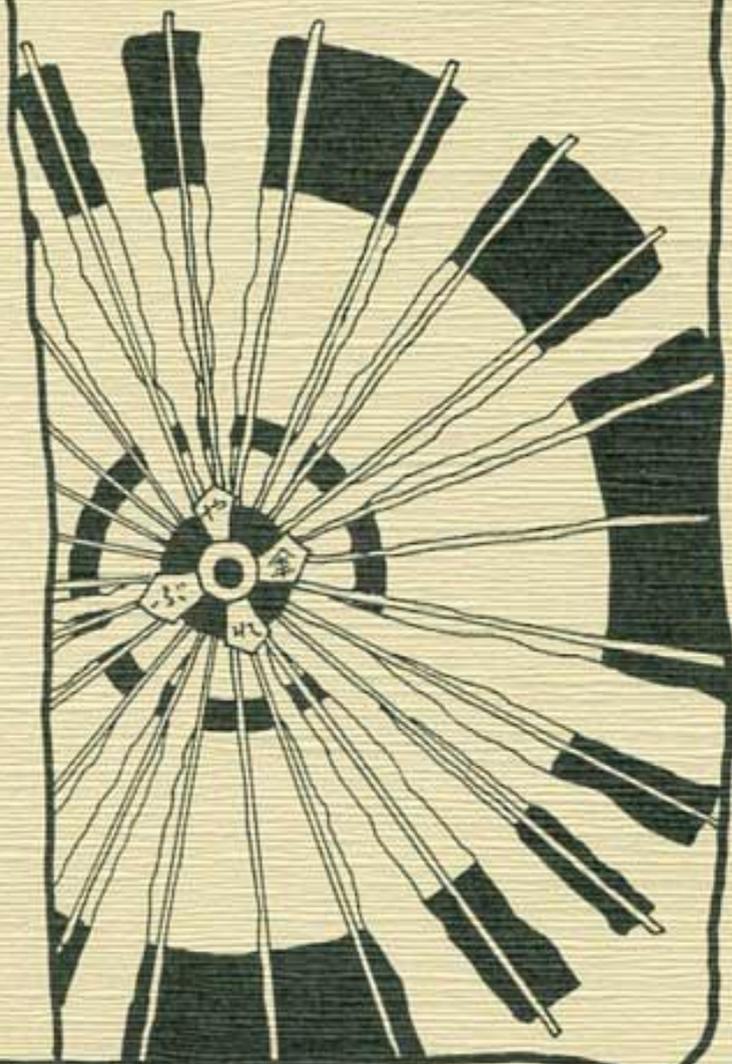


やぶれ傘



五十一号

二〇〇九年十二月

ラジオ体操ときをり威し銃の音	根橋宏次
ト口箱の秋刀魚の氷まみれなる	きくちきみえ
引越しの荷物の一つ菊の鉢	廣瀬雅男
地下道の壁に耳の絵太閤忌	瀬島洒望
庭影のひとつとなりし酔芙蓉	天野美登里
手探りのスイッチに触れ十三夜	安藤久美子
屋根抜けし農具置き場や蓼の花	丑久保勲
すぢ雲のはてにありけり昼の月	藤井美晴
くねりたるままに轆かれて秋の蛇	大島英昭
丸墓山といふ塚山秋深し	白石正躬
川岸の蛇籠より生ひ彼岸花	渡邊孝彦
茶の花の垣を跨ぎて隣家へと	國保八江
欄干からこゑと飛び込む裸の子	有賀昌子
面の奥に対する眼あり汗忘る	松村光典
サルビアの盛りや小糠雨の降る	齋藤朋子

抄 集 句 選 夫 紀 崎 大 傘 ぶ や

千屈菜 <small>みではぎ</small> や寄り来る鯉の口あまた	篠崎善久
弁当の隅に郷土の菊膾	鈴木昌子
大仏は猫背におはす鯛雲	武田紀久
大蓼の花一面の中洲かな	時田義勝
草紅葉雲よりのぞく剣岳	都丸スミ代
波音は鬼百合の咲く小径まで	貫井照子
秋空に飛行機雲の何処迄	橋本美代
小上がりの壁に番付衣被	松本善一
花野ゆく宿の迎へを断りて	松本正生
秋蝶は松ふく風に逆らはず	秋山信行
新盆の夜は父母の寝間に寝て	浅嶋 肇
赤とんぼ去年ここらは芋畑	岩藤礼子
魯田や畦に憩へる測量士	小川 滋
甲斐駒を遠見にあかねとんぼかな	奥田温子
秋深む風に日射しにせせらぎに	久世孝雄

盆 荒 れ

大 崎 紀 夫

藻の花の揺れては離すひかりかな
梅雨の川わたりきて櫓を休めけり
海猫ごめ鳴けり港の倉庫暮るるころ
紙し垂で揺るる下にちけり蟬しぐれ
沖に湧く雲に西日ののこりけり

筋雲の下を綿雲今朝の秋

山の端の夜の白みゆくをどりかな

艇庫へとボートかつがれゆく残暑

朝寒の巴里にパン買ふ藤村忌

月白の土手をからすの越えにけり

盆荒れの風を砂丘のいただきに

炎昼の犀の真下に犀の影

秋の蛇

大島英昭

茅 葺 に 観 音 お は す 残 暑 かな
松 が 枝 に か げ 濃 き と ころ 秋 暑 し
水 音 を 遠 く き ち き ち 飛 蝗 かな
栃 の 木 の 根 方 に 陽 の 斑 法 師 蟬
く ね り た る ま ま に 礫 か れ て 秋 の 蛇
山 道 に 丸 太 積 み あ り 秋 日 和
魯 田 に 鴉 降 り 立 つ と ころ かな
野 茨 の 実 の あ か ら み て ゆ く と ころ
野 の 花 に 松 ケ 枝 影 を 落 と し け り
末 枯 れ や 馬 頭 観 音 十 基 ほ ど

塚山

白石正躬

秋燕土手の高さを飛びにけり
のぼる径くだりみちある花野かな
川風に身をつつまるる良夜かな
夕雲に秋の日の色濃かりけり
踏み跡の続く山道秋澄める
秋耕の夕日まみれとなりにけり
不揃ひの飛び石つたふ月の夜
鈴の音じやらんと通る杜の秋
蒸したての薩^さ摩^ま芋^まほほぼる日和かな
丸墓山といふ塚山秋深し

蛇籠

渡邊孝彦

川岸の蛇籠より生ひ彼岸花
注連繩の紙垂に秋風水神社
用水に架かる土橋曼珠沙華
十五夜の畑の土の黒さかな
十六夜や健やかに日を疲れ切り
河口への川の距離標すすき原
つづれさせメリケン波止場跡に立ち
団栗の木に繋がれし牧の山羊
べつたら市老舗の紋の幟かな
踏切のレールに秋の没り日かな

茶の花

國保八江

木洩れ日を揺らし葡萄を剪りにけり
水に浮く白桃産毛ひからせて
手の届くところは青き烏瓜
石垣の石に罅あり蔦紅葉
小鳥来る帆を下したるマストにも
さくを切る人に影ある秋の暮
菜園の隅に括られ残り菊
文科より法科への径虫時雨
茶の花の垣を跨ぎて隣家へと
群れて来て鴨散り散りに着水す

裸の子

有賀昌子

鶉篝の火の粉烏帽子に落ちにけり
疲れ鶉をたぐりあげたる飛沫かな
欄干からこゑと飛び込む裸の子
川石のかげに動かぬ岩魚かな
みんなんや昼餉の Pasta 茄である
施餓鬼会の散華のひとつ受けにけり
うすがみのやうな満月明けの空
小さき手で揺らす風船かづらかな
道の端に狗尾草と有田草
黄昏の富士は真向ひすすきの穂

面の奥

松村光典

面の奥に対する眼あり汗忘る
新涼の中野坂上バスを待つ
妻の吹くオカリナの音に秋の色
木犀のかをる道へとペダル漕ぐ
とびら開き木犀匂ふ駅に着く
秋の日を浴びて寝る人駈ける人
秋の蚊を黒子とおもふ月夜かな
潮騒と実りの秋と伊豆の空
原宿にぎんなん匂ふ路ありて
朝の日の落ち葉踏み踏み歩きけり

み学長昏底こサ
 ちびきれ紅のル
 のく舎夜残や峠ビ
 のはバる気越ア
 の土眠夕空神象せの盛
 産りに野社の上りや
 に柚餅子もらひけり
 子もらひけり
 もらひけり
 らひけり
 ひけり
 けり
 り

齋藤朋子

も灯堀玄虫稲青
 つの登関のの天
 煮とるに音の香の
 込もる力棲やのの
 むる奥まみ夜今里
 音を夜だつ具朝
 間業ありて少より
 近の石虫のこは濃
 にポ榴のこははゆ
 新ーののこははき
 走ルののこはは通
 り盤ののこはは勤
 路

齋藤博

佐竹千代

引く波にサンダルとられ夏の果て
里山や目の先いつも赤とんぼ
文庫本捲る音のみ秋の夜半
箱根来てて芒が原に風の波
コツコツと我が靴音と虫時雨
月出でて昼と変らぬ鱚雲
吾亦紅亡夫の遺せる定期入れ

佐藤静子

食べあとは人それぞれ西瓜かな
始発待つ列長ながと秋涼し
シユルシユルと行く手横切る秋の蛇
花籠に名草秋草投げ入れて
洋梨を好みみし妣にまづ供へ
子の知らぬ鬼灯鳴らす遊びかな
山行きの足の休めて葛の花

◇1~2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	4日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	8日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	27日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
2月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	向島百花園	丑久保 勲
	24日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	27日(土)	AM9:30	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) 1月のNHK教室は第5金曜日の29日です。

2月21日(日)の吟行。集合は10時。東武伊勢崎線・東向島駅改札口(東武浅草駅から各駅停車で二つ目です)。吟行地:向島百花園。句会場:森下文化センター(曳舟駅乗り換えて半蔵門線・清澄白河駅下車)。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎048-862-2757 藤井美晴 ☎0422-55-2733
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 浦和コミセン ☎048-887-6565
 丑久保 勲 ☎048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ